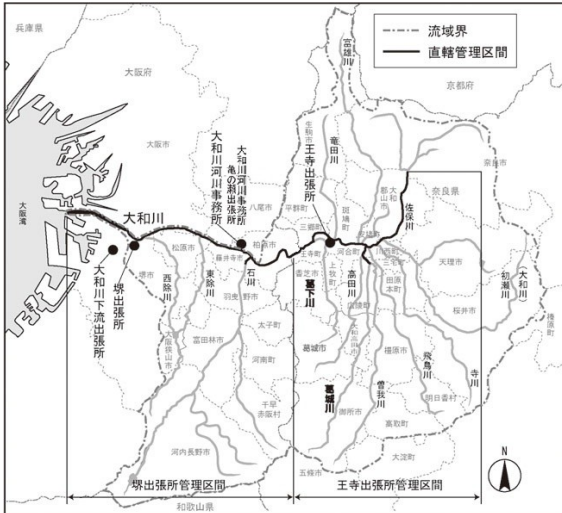


日本あちこち河川遡行記（第252回）

奈良-1. 大和川（その2） 平成30年12月25日（火）快晴



02.大和川流域図

今日はクリスマス。今朝は高気圧が真上に来たので最低気温は1度。久しぶりの冬らしい寒さとなった。サンタさんは朝6時過ぎの電車に乗って奈良へ向かう。4時間半の乗車で近鉄橿原線の「結崎駅」で下車。前回に帰路に着いた「ファミリー公園前」駅の次の駅である。最初の橋がどちらの駅からでも同じ距離に有るので違う駅に降りることにした。駅は東西に細長い「川西町」の東端にある町内唯一の駅である。



02.近鉄結崎駅から開始

駅前の絵地図を見ると町の北端を大和川が、中ほどを寺川が、西端を飛鳥川と曾我川が流れている。これでは川西ではなく川だらけやないか。駅南の踏切を渡り、すぐに左折して北に向かう。足元のマンホール蓋の絵柄はどこにでも有る町の花と木と思われる。帰宅して調べると、町の木は欒と花のコスモスであった。ピンポン！もっと町の特徴のある絵柄が描けないのかいな。



03.結崎駅は川西町の東の端に有り、 04.川西町は町花のコスモスと町木の欒
北東の橋に向かう

最初の町道橋「下永橋」を見て「初瀬川」の左岸の土手道を南東に向かう。大和川は先日の「佐保川」の合流点から上流部は「初瀬（はせと読む）」川とも称されている。牡丹と観音霊場として有名な真言宗豊山派の総本山「長谷寺」は大和川上流の桜井市初瀬に有り、この地名が川名になっている。どちらも字は違うが読みは「はせ」である。

すぐに京奈和自動車道の高い高架橋が川を難なく越えている。道路は国道 24号の高規格自動車専用道路である。木津川遡行時に出会った高速の大和バージョンである。橋脚の途中には後日建設される一般道の橿原バイパスの橋が架かるように準備されている。振り返ると陸上部はすでに用地買収が終わりフェンスが広く張られている。帰宅して調べると、この渡河区間以外の前後はすでに自専道とバイパス道の両方が開通していることが分かった。



05.京奈和道の橋脚は側道を取切り

06.用地は確保済みだ

橋の下を潜り進むと正面の東側から「布留川」が合流している。天理市の中心部からの流れで上流の笠置山地の中には天理ダムも有る。合流点の船の舳先

部にはミニ公園もある。



07.天理の中心部からの流れ「布留川」が合流

「天神橋」を往復し土手道に戻り盆地を斜めに進む。続いて国道 24 号の「帰仁橋」に着く。この国道の道はかつての大和古道の一つである「下ツ道」の現代版である。郡山市南東端から橿原市まで南北一直線に 10km 以上もの道が延々と続き、北海道も顔負けの道である。古代の条里制の整った大和平野（盆地）ならではの道である。国道の橋を渡り今度は右岸側の土手道を上流に向かう。次の橋「常宝寺橋」の彼方の東の山々の最高峰「竜王山（H=585m）」が近くなってくる。



08.盆地の東の山地の最高峰「竜王山（H=585m）」を望む

橋を渡り再び左岸側を進むとそこは「田原本町」である。土手下にマンホール蓋が見えたので下って見ると楼閣が描かれている。これも帰宅してから調べると、町内にある「唐古・鍵遺跡」から発見された古絵に描かれていた楼閣を復元した物である。



09.田原本町の絵柄は遺跡の絵から復元した楼閣だ

田原本町は国道 24 号（旧下ツ道）沿いと近鉄橿原線沿いに集落が発達した町で、橿原線だけでは足りず、田原本線まで走らすほどの実力のある町である本線では無く支線である。

無風快晴の絶好のコンディションの元快調に歩く。やがて「布留川」のもう一つの川が左側から合流してくる。先ほどの川とどちらがほんまもんなんや？地形図の川の屈曲を見ているとこちらが本家で先ほどのは分家だろう



10.左からもう一つの「布留川」が合流

土手下の田んぼの中の一つに刈り取りの終わった稲の藁がそのまま残され、東にされ傘のように三角錐状に干されている。最近は大規模機械で刈り取りが行われ、稲わらが細かく裁断されてそのまま田んぼに残っているご時世に珍しい

東側を見れば山並みの南端に優雅な姿の「三輪山（H=467m）」が大きく見える。この山は山裾に社殿の有る「大神神社（おおみわ）」のご神体である。20年ほど前に桜井駅から山の辺の道を天理駅まで歩き、この神社にも立ち寄った。「春日山」、「三輪山」、「大峰山」と大和には信仰の山が数多く有る。



11.今は少なくなった稲わらの傘帽子達



12.山全体がご神体の「三輪山
(H=467m)」

南東からの流れが南からの流れとなり「法条橋」に来ると西側に廃校となった志貴高校の校舎が建っている。こんな交通不便な所に高校を開校したものだ僅か24年で桜井商業高校に統合され廃校となった。

法貫寺地区に来ると東から自転車道が一緒になり南に進む。川沿いにミニ公園が次から次と現れ勿体ない。公園の一つには町の啓発看板が立ち、あの楼閣が描かれている。別の公園には盆地と周囲の山を見る展望楼閣も建っている。今日は絶好の展望日和であるがあの階段を上がるのは大変なので通過する。



13.町の看板にも復元楼閣が



14.川沿いの公園にも似非楼閣が展望台に

ミニ前方後円墳の横を通過すると川は再び南東方向からの流れとなる。今日の歩く辺りにバス路線は無く桜井駅まで歩くしかないので決死の覚悟をして歩く。「蔵堂」地区に来ると西の方の神社の森の彼方に二上山が少し霞んで見え

る。南の葛城、金剛山は更に霞んで見える。

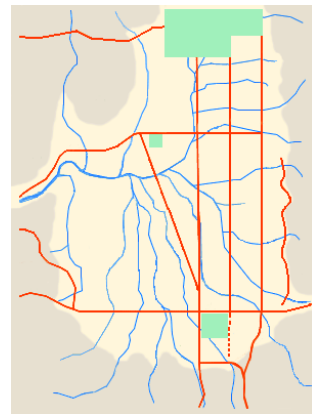


15. 鎮守の森の彼方に二上山

「蔵堂橋」の橋際に大きな案内柱が立っている。この橋の前後の南北の道はかつての「中ツ道」であることが分かる。平城宮と飛鳥を結ぶ三本の南北の道は約2km間隔に設けられていた、かつての高速道路である。道は全て奈良の都に通ず。

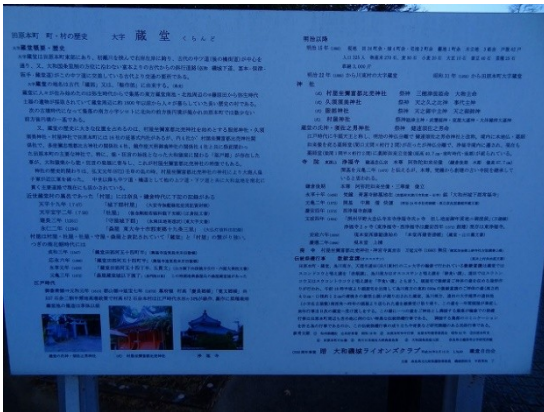


16. 大和三古道の内の中ツ道はここで川を越えた



17. 大和の三古道

直ぐ近くの休憩施設の公園にはこの地区の歴史が書かれた解説板が有る。奈良と言えやお寺を思い浮かぶが、この大和川沿いには無数の神社が有る。地形図を見ると卍よりも鳥居の記号の方が多い。大きな家の前には鈴なりに実をつけた柚子が生っている。彼方の三輪山をバックにカシャ。



18.蔵人地区の歴史を誇る川沿いの公園
で知る



19.柚子が鈴なりに

自転車道に車は時々速度を落とさずに通過していくが肝心の自転車はやってこない。それにしてもベンチとトイレとミニ公園が連続している。少しは他の川に回してくれまへんか？と言いたくなるほど続く。まったく平たんな川沿いの道であるが久しぶりに堰が現れ少しは遡行しているのが分かる。彼方の三輪山の右には初瀬川を前にした音羽三山の山が見える。ここから見えるのは「音羽山（H=851m）」で最高峰の「熊ヶ岳（H=904m）」は音羽山に隠れて見えない。



20.左岸側の自転車道には公園が連続する



21.三輪山（左）の右には竜門山地の北端の音羽三山が聳える

田原本町から桜井市に入る。川はゆっくりと屈曲を繰り返しながら盆地の東部を流れている。大西地区の橋を渡り久しぶりの右岸側を歩くと土手の上に全く同じミニ祠が3つ並び、中には小さな石像が有る。手厚く取り扱われていて微笑ましい。

左岸側の方が山を見ながらの歩きなので次の橋で元の鞆に戻る。県道の「庚

申橋」は架け替え工事中で新橋本体は完成している。そのすぐ上流側には立派な仮設橋が架けられている。高知で何度か見た「ヒロセ」の仮設橋である。橋の長さ、幅が2m毎に、橋の荷重の大小の別との組み合わせで最適な仮設橋がすぐ出来る優れた物である。



22.立派な祠に地蔵三体は満足、満足



23.完成間近の「庚申橋」の隣には立派な仮設橋が

国道169号のバイパスと旧道を診て更に進む。JR桜井線の橋を遠くから見て今日の遡行をここまでとして桜井駅に向かう。ここまで何と37もの橋を見てきた。途中には全く同じ二径間PC桁橋が10以上も続く飽きてしまうほどの橋の連続であった。南の駅に足を引きずりながら歩く。

駅前の食堂の入り口には奈良名物の三輪そうめんの温麺と茶粥のメニューが写真入りで客に呼び掛けている。茶粥は食べたことが無いので次回チャンスがあれば食すことにして駅に入る。JRに乗るか近鉄にするか迷うところで、JRなら18切符利用で無料だが近鉄なら620円必要である。大阪まで一気に行ける近鉄の方が断然早いのでここは620円の方を取る。

上六行き急行の運転士は今朝の橿原線もそうであったが女性運転士である。カッコいい制帽をかぶり後ろ姿が凛々しい。車掌は男で世の中逆になってしまった。大阪駅の新快速待ちの時間を利用して東口の「イカリ」に急行して遅い夕食の食材を買い5番線に急ぐ。



24.桜井駅前の食堂には名物の
三輪そうめんと茶粥



25.桜井駅前の桜井名所地図

本日の歩行距離：14.3km。調査した橋の数：37。

総歩行距離：10,233.6km。総調査橋数：12,784。

使用した 1/25,000 地形図：「大和郡山」（和歌山 1 号-3）、「桜井」（和歌山 1 号-4）